ニ就テハ從來ノ Stiftkrone ヨリ維持ノ優秀ナルコトハ數學的ニ證明シ得ルノデアル。

Doppelringstift-Krone ノ製作技術

支臺齒形成ハ大約 Ringstift-Krone ト同様デアルガ異ルノハ内環ヲ裝著ス可キ根管上部ノ形成デアツテ適當ナル廣サト長サが必要デアル。上顎齒ナラバ 6—8mm, 下顎齒ナラバ 4—7mm ノ長サヲ必要トスル。是等ノ形成ハ圓錐形ノ「バー」ヲ以テ行ヒ 最も正確ニ行ハナケレバナラナイ。根管ノ形成ガ終ツテ内環ノ製作ニ移ルノデアルガ之ニ要スル金屬板ノ厚サハ 0.12mm—0.15mm が適當デアル。内環ハ出來得ル限り長イ方が良ク一般ニ外環ヨリ長キコト 2.8mm—3mm デアル。内環ハ根ノ方ニ向イタ端ニ鉋テ刻ミ目ヲ入レル。コノ内環ハ接合セズ根管ニ押シ込ミ根管ノ横断面ニ從ツテ内環ヲ切斷シタ後内環ヲ引出シ縁ノ内側ニ 2 個ノ小金屬片ヲ接合スル。併シテ後再び根管ヘ挿入密著セシメル。既ニ適合セル外環ヲ裝著シ石膏模型ヲ採ルガ内環ハ 2 個ノ小金屬片ノ爲ニ容易ニ石膏ニ固著シ外環ト共ニ埋沒劑ヲ注入シ硬化ノ後根面板ヲ鑢著スル。

(岡部圭司)

矯 正 科

不銹鋼デ作ツタ 2 個ノ維持釘ノアル維持裝置

Ancrage à doubles pivots pour acier inoxydable.

Dr. Ernest Comte. Schweiz. M. f. Z. 1935. p. 425.

著者ハ、不銹鋼ガ矯正方面ニ應用サレルヤウニナツタノハ De Coster, L. ニ貢フ所が多イト

圖 1

圖 2

述べ且ツコノ材料ガ金ト同様ニ鑢著スルコトガ出來ルヤウニナツタノデ、コレヲ用キテ常ニ満足スベキ結果ヲ得テ居ルト述ベテ居ル。猶、著者ハ 2 個ノ維持釘ノアル維持裝置ヲ不銹鋼デ作ル方法ヲ考案シ、コレヲ臨牀上ニ應用シテ效果ヲ得テ居ルト述べ、ソノ製作過程ヲ發表シテ居ル。先ヅ圖 1 ニ示スヤウナ特殊ノ鉗子ヲツクリ、ソノ尖端ノ相互ニ接スル部ノ一方ニハ圖ノヤウナ 3 個ノ「刻ミ」ヲツクリ、一方ノ面ニハコレニ適合スル突起ヲ作り、コノ兩方ノ間ニ 0.2mm ノ厚サノ不銹鋼ノ帶環材料ヲハサンデ鉗子ヲ緊密ニ閉ザレバ圖 2 デ示スヤウナ形ノ 2 個ノ管ノヤウナモノガ出來ル、コレヲ圖ノヤウニ、帶環ニ電氣熔接スレバ完全ナ 2 個ノ管ガ出來上ル譯デアル。猶、鉗子ニ突起ガ三ツアルノハ各々ノ

距離が多少違ツテ居テ、永久歯ノ場合ハ突起間ノ距離ノ長イ方ヲ用キ、乳歯ノ場合ハ小サイ方ヲ用フルノデアル。コノ管ハ直径0.8mm ノ線ニ適合スルヤウニ出来テ居ルガ、コレニハイル維持釘ノ末端ヲ緊密ニシメナケレバ0.6mm ノモノヲ用キルコトモ出来ルシ、維持釘ヲ緊密ニシメテ、且ツ管ヲ少シ緩メニ帶環ニ熔接スレバ1.0mm ノ線デモ使用スルコトが出来ル。コノ鉗子ハ既製品デ既ニ販賣サレテ居ル。維持釘ハ、R. Schwarz ノ考案シタ特殊ノ鉗子ヲ用フレバ極メテ簡單ニ、短時間内ニ作ルコトが出来ル。圖3 ハ一方ノ維持釘ヲ完成シテカラ、他方ノ釘ヲツクル

圖 3

圖 4

順序ヲ示シタモノデアル。即チ一方ノ釘ヲ圖3 ノヤウニ、曲ゲテカラ一定ノ距離ヲ置イテ再ビコレヲ屈曲スレバ2個ノ維持釘が出来ル譯デアル。猶、コノ釘ノ末端ハ圖4 ノヤウニ曲ゲテ置ケバ、コレガ維持線トシテ働キ弧線ノ保持ヲ確實ニスルコトが出来ル。コノ装置ノ特徴トシテハ、

圖 5

(1)簡單ニ管及ビ維持釘ヲ作ルコトが出来テ、然モソノ長サハ齒冠部ノ高サニ從ツテ、任意ニ變ヘルコトが出来ル。(2)2個ノ維持釘ガアルタメニ、弧線ヲ維持スル力ハ大變強固デアル。殊ニ垂直方向ニ對シテハ維持力が充分デアルカラ、犬齒、或ハ小白齒等ニ帶環乃至ハ Bracket 等ノ附加裝置ヲ作ル必要ハナイ。(3)管及ビ維持釘ノ距離ヲ一定ニシテ置ケバ必要ニ應ジテ、帶環ヲ口腔内ニ入レタ儘、弧線ヲトリ換ヘルコトモ出来ル。(4)維持線ハ又維持裝置ノ脱ケルノヲ防グニ役立ツモノデアル。コレハ特ニ

舌側弧線ノ維持裝置トシテ最も適シテ居ルガ、唇側弧線ニモ圖5 ノヤウニスレバ用フルコトが出来ル。猶、顎間固定裝置トシテ「ゴムリング」ヲ使用スル時ハ圖6 ノヤウニ弧線ノ末端ヲ曲ゲテ、維持線ヲ兼ねテ「ゴムリング」ヲカケル鉤ノ代用トスルコトが出来ル。(高橋新次郎)

遠距離 X 線寫眞ノ撮影ニ對スル新シキ簡易法ニ就テ

Über ein neues und vereinfachtes Verfahren
zur Anfertigung von Teleröntgenogrammen